

# 令和8年度 第1回 成田市地域公共交通会議

## 書面開催結果

### 1 議決日

令和8年4月17日

### 2 協議者

(委員)

河合委員、三浦委員、田中委員、馬上委員、成田委員、伊藤（賢）委員、浅岡委員、尾関委員、山田委員、石橋委員、山本委員、村島委員、大澤委員、横山委員、平野委員、秋葉委員、塩島委員、轟委員、伊東委員、福浪委員、若林委員、高梨委員、神崎委員、諸岡委員、石橋委員、宮田委員、篠塚委員、金光委員、谷崎委員、伊藤（善）委員、富澤委員、山崎委員、松島委員

(合計 33 名 順不同)

### 3 議題

(1) 地域公共交通確保維持改善事業費補助金 地域公共交通調査事業（地域公共交通アップデート化推進事業）の申請について

### 4 協議結果

承認する 33 名 承認しない 0 名 未提出 0 名

過半数の委員から承認されたことにより、案のとおり決した。

### 5 その他意見等

- ・今回は、補助金の申請期限もあり、止むを得ないものと思料いたします。一方、未来に向かい、財務会計行為の主体となることが補助金の受入の前提となることも予想できますので、是非ご検討くださるようお願い申し上げます。
- ・地域公共交通確保維持改善事業費補助金 地域公共交通調査事業（地域公共交通アップデート化推進事業）の申請について承認しますが、意見をいたします。  
この調査が、地域のマスタープラン（地域公共交通計画）に沿ったものであることが重要視されますので、「調査して終わり」ではなく、その調査結果をどう実際の運行サービス改善につなげることが大事でありますのでよろしくお願いします。

コミュニティバスは、一般のバス会社が採算取れずに撤退した路線や、もともとバス

が走っていない「空白地帯」を埋めるために税金を投入して走らせるものです。すでに一般路線バスが元気に走っている区間に、市町村が安い運賃のコミュニティバスをぶつけてしまうと、民間のバス会社の経営が悪化し、結果として地域全体の交通網が共倒れになってしまう恐れがあります。

競合から「共存」へ、競合を避けるだけでなく「リ・デザイン（再構築）」についても公共交通会議で継続して協議して行く必要があると思います。

- ・燃料代の高騰や、運転手不足等、厳しい環境の中ですが、市内循環バスを減便しないで欲しいとの声が地方に行く程、高齢者世代が多い地区程、訴えが多いです。
- ・住民意見収集等で得られた結果などは今後の成田市の公共交通について検討する上で重要な意見になると思われるので、フィードバックはぜひお願いしたい。又、意見収集は全方位にキチンと聞くようにしてもらいたい。